あなたのメガネをケニアに贈りませんか

イワキが4～6月にキャンペーンを展開

3000円で下取り

眼鏡専門店のイワキ（東京都渋谷区）は、下取りした眼鏡をリメークしてケニアに贈るキャンペーンを展開しています。MOTTAINAIキャンペーン事務局と連携し、生まれ変わった眼鏡を10月にも現地に届けます。イワキの担当者に、キャンペーンに込める思いを聞きました。【浅田芳明】

「MOTTAINAI・メガネ・キャンペーン」は、4月1日から6月30日まで、首都圏のイワキメガネ約30店舗で実施します。不要になった眼鏡を持参し、新しい眼鏡を購入した場合、下取り代として眼鏡代金から3000円を差し引きます。顧客に利益を還元すると同時に、眼鏡をケニアに贈って社会貢献、国際貢献をしようという試みです。

下取りした眼鏡は、同社修理部門で洗浄、再調整します。再生された眼鏡は加工部門に引き継がれ、新しい紫外線カットレンズと老眼鏡（強弱の2種類）のレンズをフレームに取り付けます。ケニアには、事務局を通してサングラス180本、老眼鏡20本を届ける予定です。残りの下取り眼鏡は、同社が眼鏡の一大産地、福井県鯖江市にある「めがね会館」に持参し、「メガネ供養をお願いする」といいます。

グリーンベルト運動で植樹作業に精を出す現地の人々

MOTTAINAI・メガネ・キャンペーンへの思いを語る株式会社イワキの営業推進部副部長の石渡美智雄さんと岡本桂子さん＝撮影・山田茂雄

贈呈先は、MOTTAINAIキャンペーン＝※1＝の提唱者でノーベル平和賞受賞者、故ワンガリ・マータイさんが創設したケニアの非政府組織「グリーンベルト運動」です。メンバーはMOTTAINAIキャンペーンと連携して植林活動を展開しています。現地は白内障の一因とされる紫外線が強く、目を保護するためサングラスを中心に贈ることにしました。近視用は度数が千差万別なため、手軽に活用できる老眼鏡も用意します。

同社は1932（昭和7）年に創業しました。2013年6月以降、メガネを通した社会貢献のあり方を模索。その中で、MOTTAINAIキャンペーンに着目し、「グリーンベルト運動」に眼鏡を贈る企画につながりました。岩城大社長は「イワキを長年ご利用いただいたお客さまへの感謝の気持ちを持って、全社員でキャンペーンに取り組みます」と抱負を述べています。

同社営業推進部の岡本桂子副部長は「物を大切にしたい気持ちがあります。お客さまが愛用した眼鏡がよみがえり、私たちの仕事も役立つと思うと、うれしくなります。イワキとお客さまのホットなレールがつながると思います」と話します。また、同部の石渡美智雄副部長は「ケニアに贈れるような堅牢な眼鏡がどれだけ集まるのか、初めての企画なので期待と不安が半々です」。ケニアの人々の顔に合わせた眼鏡の調整やメンテナンスなどへの対応は「来年の課題になるでしょう」と述べています。

同社はキャンペーンを通して、老眼鏡の需要などケニアの眼鏡事情も探る予定です。石渡さんと岡本さんは「今年の成果を来年以降に役立てたい。キャンペーンは毎年春ごろに実施し、ずっと継続できるように企業努力をします」と語りました。

キャンペーンの問い合わせは同社（☎03・3462・1501）。

（※1）MOTTAINAIキャンペーン

Reduce（ごみ削減）、Reuse（再利用）、Recycle（再資源化）の3Rと、地球資源に対するRespect（尊敬の念）が込められた言葉「もったいない」を、環境を守る国際語「MOTTAINAI」とし、地球環境に負担をかけないライフスタイルを広め、持続可能な循環型社会の構築を目指す活動です。ワンガリ・マータイさんが提唱し、2005年にスタートしました。企業からの協賛や環境にやさしいオリジナル商品の販売、各種イベントなどを通じてキャンペーンを展開し、収益の一部をマータイさんが創設したケニアの植林活動「グリーンベルト運動」に寄付し支援しています。マータイさんは11年9月に亡くなりましたが、マータイさんの遺志を継いでキャンペーンは継続しています。

MOTTAINAI

川崎市の複合商業施設「ラゾーナ川崎プラザ」に出店している「イワキメガネ　ラゾーナ川崎店」の店内の様子

JICA指導員として
グリーンベルト運動に勤務

湊佑介さんが見たケニアのメガネ事情

グリーンベルト運動に勤務していた2012年11月当時の湊佑介さん。現在は長野市消防局に復職し、「ケニアではメガネは高級品。キャンペーンが成功してほしいです」と期待を寄せています

紫外線がきつい現場、サングラスなし

長野市消防局に勤務する湊佑介さん（30）は2年間、国際協力機構（JICA）から防災担当の指導員としてケニアに派遣されました。今回、眼鏡の贈呈先となる「グリーンベルト運動」（GBM）でも1年間、勤務しました。湊さんに現地の眼鏡事情を聞きました。

2011年6月からのケニア野生動物公社（本部・ナイロビ）勤務を経て、12年7月から「グリーンベルト運動」で働き、ケニア山北西の広大な範囲に足を運びました。住民への火災予防啓発活動が主な任務でした。

植林の現場は標高が2000㍍を越える高地です。紫外線がかなりきついですが、目を守るためサングラスをかけるという習慣はありません。村を歩くと白内障と思われる高齢者も見ました。

老眼はあると思いますが、老眼鏡をかける人はほとんどいません。老眼で目が見にくいという話はよく聞きました。

ほとんどの人は目がよいと思いますが、田舎では近眼の子どもを親や先生が理解できず、目が悪いとは何かという事を分かっていない人も多いです。

そもそも田舎には眼鏡店すらありません。サングラスと老眼鏡を贈るキャンペーンは、現地の人たちに非常に喜ばれると思います。

併せて、目を守るための基礎知識的な教養の普及をされたら、より効果があるのではないでしょうか。また、GBMに壊れた際の簡単な修理道具があれば良いと思います。

眼鏡の需要はかなりありますので、キャンペーンの広がりに期待しています。

MOTTAINAIコラム

MOTTAINAI
ようこそ
MOTTAINAIへ。

レガシーを受け継ぐ

マータイさんの長女ワンジラさんが2月下旬に来日しました。

彼女は、故マータイさんの秘書役として、また、グリーンベルト運動（GBM）の国際部門の責任者として活躍。母の死去後は財務・組織改革等に尽力し、今年1月に理事長に選出されました。

今回の来日は京都市での「第5回地球環境の殿堂」（第1回の受賞者はマータイさん）のシンポジウムに出席するため。その後、東京に立ち寄ったワンジラさんは「母を失いとても寂しいですが、母が今戻ってきたとしたら、真っ先に『あの頃よりどれくらい進んだ』と聞くでしょう」と話していました。

母のレガシーを受け継ぎ、新生GBMを率いるワンジラさんの手腕に期待しています。

【MOTTAINAIキャンペーン事務局長・七井辰男】

エコバッグを使った素敵なラッピング10人にプレゼント

エコバッグをラッピングに使う包装が人気を呼んでいます。贈答品を受け取った人に、そのバッグを買い物で使ってもらおうという仕掛けです。2年前からこの方式を取り入れた立巳物産（東京都千代田区）の矢野誠州社長は「まさに、MOTTAINAI精神を生かしたラッピングです」と話しています。

エコバッグはA4サイズが入る大きさです。持ち手を中に織り込んで商品を包み、「サンクスバンド」で縛ります。サンクスバンドはケニア産の天然素材サイザル麻と、天然粘土で作られたビーズのセットです。これらがついて、540円（税込み）でラッピングができます。

立巳物産はMOTTAINAIキャンペーンの賛同企業です。これまで過剰包装になるとしてラッピングはしませんでしたが、社員のエコな発案を受けて方針を転換したそうです。矢野社長は「これを使ってお友達に素敵なプレゼントをしてください」と話しています。

エコバッグラッピングを手にする矢野社長。「これのおかげで、ギフト需要が増えました」

ラッピングに使うエコバッグとサンクスバンドをセットで10人にプレゼントします。はがきに、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、〒102−0083　東京都千代田区麹町3−12−14立巳物産プレゼント係までご応募ください。4月30日必着。「MOTTAINAI　Shop」のホームページ（http://mottainai-shop.jp/）で商品を購入し、ラッピングすることができます。

モッタイナイは世界中のアイコトバ。MOTTAINAIキャンペーンの関連情報が満載です
オフィシャルサイト
http://mottainai.info

MOTTAINAI